

Shin Club 11

株式会社 通信 Vol.11
February 2001年
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f
Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

今月のトーク 「最新オフィスレイアウト事情」

今月は、最近オフィスの考え方も変化してきたというお話。
「大伸社」さんは、創業50年、カタログ、パンフレットの作成が中心の印刷会社です。本社は大阪ですが、最近ではWEB関連の事業にも積極的に取り組んでいます。そしてこのたび東京支社のオフィスのリフォームを弊社が施工させていただきました。
「会社のデジタル化が進み、印刷だけでなく、ホームページなども作るようになって、人材管理の仕方を、終身雇用から成果主義に移行しようという全社的決意がそこにありました。」と上平論社長。

「会社とは何か」を考えると、資産は人間。その人間をいかに活性化させるか、オフィス空間を変えることで何かできないかというのが今回のリフォームの出発点です。

カタログ製作は、いろんな人とのコラボレーションで成り立つ仕事。クライアント、デザイナー、ライター、ディレクター、セールス…。みなさんがオープンな雰囲気の中で、情報の受け渡しをより自在にできるようにすることがリフォームの第一の条件でした。そしてもう一つは「自分の仕事をしている姿を見てほしい」という「ハレ」の意識を働くものに持たせる効果も期待されたそうです。

それから、以前は日中ほとんど出払っている営業マンのデスクがフロアの中心を占め、製作や管理部門は周りの壁を向いてそれぞれ仕事をしていました。他のスタッフからは仕事が見えなくなっていくこともあったとか。お客様への対応も、後ろを向いては、今ひとつでした。「顧客第一主義」をモットーとする会社にしてみれば、もっと何とかできないかと思われたようです。

形も中身も、よりオープンなスペースを求め、上平社長と白根英昭事業開発部部長、設計の石丸信明氏の3人は、事前にアメリカ西海岸のIT関連会社を視察されました。そこでデジタル化すればするほど、リアルなコミュニケーションがいかに求められているかを目の当たりにしたそうです。
「1日中PC相手に働く人ほど、ヒューマンタッチなものを要求するようになるんですね。『和』としてのワークスペースが必要不可欠だ」という基本にたちかえり、具体的な提案を心がけました」という石丸氏。社員同士のリラックスした接触が図れるように、次の3つのコミュニケーションスペースを設けました。

エスプレッソ・バー: スタンドに軽く腰掛け、コーヒーを飲みながら、会話をかわす。

ラウンジ: 昔の談話喫茶の感じ。お客様と一緒にくつろぎながら話ができる。ホテルのロビーともいえる。

テレフォン・ブース: 仕切りはあるが、オープンなスタイル。モバイル利用の来訪者のために、モジュラージャックコンセントも設けている。

全体がすぐに見渡せるレイアウトに加え、この3つのコミュニケーションスペースは社員の方たちにも好評です。



エスプレッソ・バーとラウンジ

インフォーマルな場の方が、情報のインプットも前向きに行われて、話のレベルもあがってきます。リフォームの費用で、社員の顔つきが変わってきたという感触を得ることができたのなら、経営者の視点からみても非常に効果的です。

そしてオフィスにはさらに意外な仕掛けがありました。貼り付けることでホワイトボードになる「ダイノック」<ホワイトボードシート:住友スリーM株>という仕上げ材を、壁や机等いたるところに採用しているのです。「ホームページのサイトマップや1,000ページにも及ぶカタログを作成するときには、どうしても大きなスペースが必要になります。いちいちページをめくる資料では意識もそがれるでしょう。一見して複数の人間が情報を共有し合える仕掛けが必要です。」と上平社長。壁一面のボードは見るからに使いやすそうです。

机はアルミの枠に取り付けたパーティクルボードの天板にシートを貼った簡単な手作りのものですが、手ごろな大きさを注文でき、量産計画もたてているとか。表面は突き板だったり、ダイノックだったり、天板のままの素朴なものだったり、場所に応じて使い分けられています。大手オフィス家具メーカーのスチール家具では出せない味わいです。

「我々は施工についてあまり高い完成度は求めていないんです。アメリカのオフィスなんか、ペンキがところどころ塗りかけだったりするんですよ。ところがそれがいいって彼らは言うんです。かえってノイズのある状態というのが心地よいんですね。完成度が高ければ高いほど、使っていくうちに汚れて、壊れることへのストレスが増大しちゃうじゃないですか。床屋に行って、きちんと決めてもらって、店を出た途端にぐちゃぐちゃにくずすとの似た感じといえるかな(笑)」というのは白根氏。確かにそのノイズ感が求められているというのは、木製ブラインドや東南アジアテイストの家具からも感じられました。ほっとするんですね。

帰社してわが社を見回しているいると考えさせられました。

Daishinsha さんのHP <http://www.daishinsha.co.jp>

TOPIC

ガーデンヒルズ鳩ヶ谷竣工(1月31日) 埼玉県鳩ヶ谷市本町4-1-6

埼玉県鳩ヶ谷市に弊社施工の分譲マンションが誕生。(全28戸)
エントランスがしゃれています。内装も充実。高台で日当たりも抜群です。
2001年3月末開通予定の埼玉高速鉄道(営団地下鉄南北線乗り入れ)の「鳩ヶ谷」駅から徒歩7分。都心の飯田橋、四谷へも20~30分で直結します。
今回販売戸数は7戸。2LDK~3LDK、65.67㎡~80.17㎡、
販売価格2,560万~3,570万円。

Photo: スズキスタジオ



お問い合わせは、担当 (株)辰 窪田まで tel:03-3486-1570 E-mail: shin@esna.co.jp
詳細は「新都心住宅販売ホームページ」URL: <http://www.shintoshin.co.jp/> をご覧ください。
施工協力: 藤栄建設

上野商会代官山ビル 地鎮祭(2月9日)

代官山にまた一つ、辰の施工が誕生します。
地下1階地上2階のアパレル関係の建物です。
設計建築: 広洋建築総合設計(株)
内装設計: 形見一郎 (有)カタ



BBS(掲示板)

しばらくお休みしていましたが、メルマガを復活しています。今月号を一部引用します。ぜひご覧ください。
<まぐまぐ:マガジンID0000020973、Pubzine:マガジンID:3219、ココデメール0000200126>
ダイレクトマンションを作ろう 建築屋へようこそ第7号 20010124(発行責任者:松村拓也)

・1月17日は「関西大震災」の起きた日です。当時、日本中が大都市の震災の恐怖を目の当たりにしました。これは決して人事ではなく、我が国の全ての地域が抱える全国的リスクといえます。今回はこの「地震」をキーワードに家づくりを語ります。

・**全壊・立入禁止** 震災直後、全国から建築技術者が召集され、建物の応急診断が行われました。この時「全壊」「半壊」という言葉が初めて用いられたのですが、神戸では壊さなくても良いマンションまで解体されてしまったといえます。にわか仕立ての診断だけで、修復可能なマンションまでが補助金のメ切だけに追われて潰されてしまいました。

・**マンション倒壊とは**一建物は、地震に遭うと弱いところが壊れます。また、部分的に壊れることによって人命に関わるような倒壊を防ぐように設計してあります。皮肉にも神戸で被災した建物は、全てその弱点が確認できたと言えます。ですから、致命的な破壊を免れたならば、まずは喜ばなければいけなかったのです。ところが現実はその逆でした。倒れた壁や潰れた柱を見て人々は建物に失望し、とりあえず貼られた「立入禁止」の張り紙が絶望を招いたのです。しかしこれは、大きな誤りであったことが昨今判明してきました。破壊したマンションのほとんどが充分修復可能であったというのです。

・**在来工法** 本来、日本の古い建物は、幾多の地震を乗り越えて生き延びてきました。今回の震災以上の破壊力を持った地震は歴史上数え切れないほど起きていますが、今回ほど多くの建物が解体されてしまった例は無いそうです。逆に言えば「地震で壊れた建物は、直して使う」ことが常識であったのです。これがまさに「在来工法」であり、科学の未発達な時代に壊れ方から学んできた先人達の知恵なのです。

・**ダブルローン** バブル崩壊以後、タダでさえ法外なローンを背負った上に担保である住まいそのものが無くなってしまっているのではその後のシナリオは書けません。全てを失っても、まだローンが残るのです。建て替えてなく修復の道を探れば、費用は半減するかも知れませんが、建物を大勢で共有しているメリットだってあるのです。しかし、さらに思うのは、被災前であったら費用はその10分の1だったかも知れない、被災前に100分の1でも補強しておけば、被害は10分の1で済んだかも知れないのです。**私は今、改めて耐震診断と補強の重要性を痛感しています。**(以上本文から抜粋)

本稿はちくま新書の「地震とマンション(西澤英和・円満洋介共著)」を読んだことをきっかけに書かせていただきました。大変分かりやすい本なので、ぜひ一読をお勧めします。

INFORMATION

本社サーバー導入、ネットワークをより充実させました。

本格的なサーバー・コンピュータを入れて、今までのネットワークをより活発に運用、オフィスのレイアウトも多少変更しました。ほとんどの社員にドメインネームのメールアドレスを配布、社内イントラネットのホームページも開始し、社内連絡もIT利用でよりスムーズに行えるようになります。

新製品情報、建設関連のお役立ちサイトもリンクして、新鮮な情報を入手していきます。
関係先のHPのリンクをご希望の方はぜひお申し付けください。(E-mail: shin@esna.co.jp)



エントランスから見たオフィス



テレフォン・ブース



ダイノック仕様の壁と机



製作部門の応接セット